B07 富山県におけるコガタアカイエカとシナハマダラカ捕集数の年変動とその要因解析

○渡辺護¹, 長谷川澄代¹, 安居院宣昭² (¹富山県衛生研究所, ²国立感染症研究所, 昆虫医科学部)

Yearly changes in captured numbers of *Culex tritaeniorhynchus* and *Anopheles sinensis* in the past 34 years in Toyama Prefecture

Watanabe, M., Hasegawa, S., Agui, N.

ウエストナイル熱やデング熱など蚊が媒介する感染症が国際的に問題になっている。そこで、これら日本への侵入が懸念される蚊媒介性感染症の予防的監視対策に寄与できると考え、富山県において1969年から継続調査を行っている、「日本脳炎媒介蚊コガタアカイエカの発生病消長調査」をまとめ、発生量の年変化の有無をマラリア媒介蚊のシナハマダラカと比較検討し、その年変化が生ずる要因の解析を試みたので報告する。

コガタアカイエカは各畜舎定点（年により5-11ヶ所）で同様の年変化を示した。1971年から1978年までは顕著に少なく、1979年から増加をはじめ1981-83年に捕集数は莫大な数に達した。その後、大小の増減を繰り返し現在に至っている。一方、シナハマダラカは各定点で独自の年変化を示す傾向が強く、両種の年変化に及ぼす要因が異なることが示唆された。要因として畜舎周辺環境、吸血源、農薬散布、気象などを検討した。

B08 ライトトラップによるコガタイエカ消長調査は週何回行えばよいか

○上村清¹, 渡辺護², 森岡斗志尚³, 折笠秀樹³ (¹丸三製薬, ²富山県衛研, ³富山医薬大・統計情報)

How many days should we observe on a week to the survey of seasonal prevalence of the Japanese encephalitis vector mosquito, *Culex tritaeniorhynchus*, using light-trap?

Kamimura, K., Watanabe, M., Morioka, T., Origasa, H.

富山県婦負郡婦中町友坂の定点豚舎で1978年から1997年にかけて通年連夜、野沢式ライトトラップを用いてコガタイエカ雌成虫の季節消長調査を行ってきた。とくに、1978、79年の両年はコの字型の3棟に各1台設置して、その比較を行った。各棟での捕集傾向は有意に相関していて、ライトトラップによる調査の有効性が確認できた。また、週1回の調査では季節消長はあまりよく把握できず、週2回以上行うことが必要で、週3回は行うのが望ましい。